

# 足利市児童の学校管理下における災害状況

足利市養護教育研究会 西南部班

柳原・前川, 東・古山, 西・高橋, 三重・小林チ, 山前・岡, 葉鹿・藤野,  
小俣・大熊, 三和・長竹, 山辺・小林マ, 南・五十嵐, 矢場川・小室,  
御厨・菊地, 筑波・高津, 梁田・此条, 大月・厚木, 大橋・天海

## 1. はじめに

足利市児童の学校管理下における災害発生件数は、常に県下の上位にあり、なお、年々増加の傾向にある。災害の増加傾向は、生活様式の変化にともなう危険回避力の欠除に起因することが大きいと考えられているが、それなら、その防止対策はどうすべきか？ 53年度抜本的な改善で学校における安全管理に関し、法制上体系的な根拠規定が設けられ、学校保健安全会計画の樹立、施行となり、災害に対する補償が充実されたと同時に、安全管理、指導の充実強化が課せられた、養護教諭のこれに係る責任の度も増したように思われるので、養護教諭として、安全教育のどの面をもっと強力に推進することが災害防止に役立つか、災害の実態を分析し、対策の一面を担いたく研究をすすめることにした。

## 2. ねらい

児童の災害発生の実態より、発生の要因を分析し、多数潜在していると思われる、内部要因、外部要因を明らかにするとともに、安全教育の重要性を喚起し、その充実強化資料として役立てる。

## 3. 調査の対象と方法

### (1) 災害発生状況に関するものの対象

養護教諭配置校のうち、各校に保存されている最古の災害報告書をもって開始し、53年度報告の災害報告書(いずれも継続の分は除く)の分までとした。(S37年度～53年度まで)

① 対象者 男 3798人 女 2397人 計6195人(災害報告書6195枚)

② 対象校 市内小学校 23校

### (2) 発生要因分析のため、上記のうちより更にしばって調査した。

① 対象者 男236人 女 156人 計392人(53年度災害報告書提出者のみ)

② 対象校 13校(南、西部班研究グループ校のみ)

### (3) 調査の方法

各項目とも、学校安全(日本学校安全会栃木県支部発行)に掲載の調査資料を参考に項目を作成し、各校に配布、養護教諭が調査に当たった。

## 4. 調査の内容と考察

※調査内容(1)～(4)の項に載せてある足利市の各種統計は、S37年～53年に至る17年間の数値を載せたものである。

(1) 年次別、月別災害発生状況

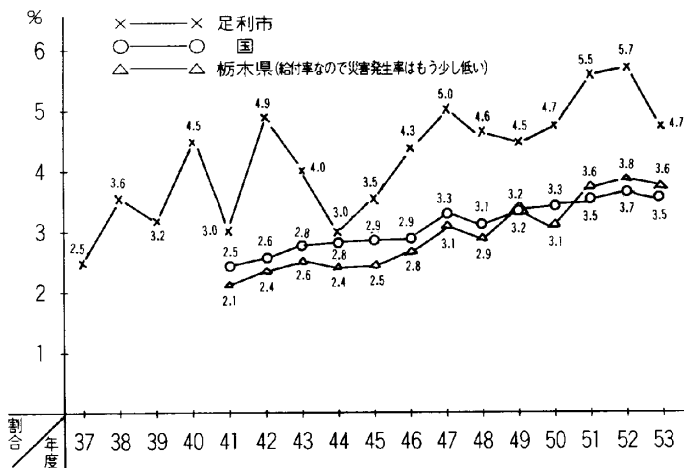
日本学校安全会法が、34年12月に公布され、同法施行令や規則等が35年に、定款も3月に制定、施行。35年4月1日より適用された。しかし、足利市では、従来より傷害補償制度があり、学校での事故は、これにより有利に補償されていたので、安全会の加入を1年間止め、共済制度の成り行きを見きわめていた。その結果、補償会より有利であることを確認し、36年度より加入した。当時の災害報告書がどこの学校にも保管されてなかったことは残念であった。従って、37年度の保存されているものから開始した。

表1 年次別、月別災害発生状況

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	国の 給付率 %	
37	男	850	3	1	4	0	0	1	8	4	1	2	5	3	32	2.3
	女	842	0	0	2	0	0	0	2	2	1	0	2	1	10	
38	男	826	3	2	0	2	0	10	7	5	2	3	3	2	39	22
	女	789	1	3	1	0	0	1	4	3	2	1	1	2	19	
39	男	824	3	6	6	3	0	3	3	5	2	4	5	0	40	22
	女	778	1	0	2	1	0	1	0	3	2	1	0	0	11	
40	男	784	1	0	5	6	0	6	5	7	3	4	4	0	41	22.5
	女	754	1	0	1	3	0	1	4	8	2	3	2	3	28	
41	男	1,364	0	3	11	1	3	3	8	10	4	4	1	0	48	24
	女	1,453	3	5	4	4	1	4	3	4	5	0	2	1	36	
42	男	1,519	3	13	15	9	2	8	15	9	7	5	10	8	104	26
	女	1,499	2	1	7	4	2	3	3	4	7	1	7	4	45	
43	男	1,933	9	15	8	6	3	10	9	20	11	1	10	5	107	28
	女	1,850	1	6	0	7	0	4	7	5	4	4	2	3	43	
44	男	4,410	8	19	17	13	1	11	11	17	14	17	12	9	149	29
	女	3,265	7	7	11	6	0	2	11	17	10	2	9	3	85	
45	男	3,546	7	15	21	12	0	15	21	18	15	7	17	11	159	30.5
	女	3,390	3	11	12	5	1	11	10	8	9	3	5	6	84	
46	男	4,288	15	23	30	13	0	21	35	32	13	17	16	17	232	32
	女	3,984	11	7	22	6	0	12	13	24	11	2	11	7	126	
47	男	5,270	14	36	48	24	2	22	41	35	31	18	33	11	315	38
	女	5,022	10	24	33	13	0	20	32	26	16	6	11	12	203	
48	男	6,123	18	32	32	23	0	37	54	34	40	23	25	18	336	37.5
	女	5,776	12	20	22	11	2	18	42	26	17	10	21	12	213	
49	男	6,804	30	38	45	16	3	36	53	33	44	33	26	19	376	38
	女	6,518	15	22	35	16	1	18	39	28	16	13	12	14	229	
50	男	7,190	22	40	45	27	10	31	43	44	31	30	61	36	420	38.5
	女	6,948	16	23	21	27	3	17	33	20	15	23	20	25	243	
51	男	7,334	20	29	46	41	4	52	48	61	47	40	32	25	445	40.5
	女	7,171	16	25	46	24	5	26	43	58	34	31	25	21	345	
52	男	7,734	35	56	71	35	1	54	61	54	44	29	49	26	515	43
	女	7,512	23	30	61	24	5	34	57	39	28	14	28	15	358	
53	男	8,182	35	38	45	20	4	44	64	48	46	33	43	20	440	42
	女	7,875	25	39	43	19	6	29	44	26	20	22	24	13	310	
計	男	67,986	226	366	448	251	33	364	486	437	355	270	352	210	3,798	
	女	65,546	147	223	323	170	26	201	347	301	199	136	182	142	2,397	

〈考察〉 表1 にみるように、37年より10年間くらいは、災害報告書をすでに廃棄されていた学校が多く、保存校のみの報告であるせいか発生件数が少なくなっている。而し、図1 足利市の災害発生状況と国・県との比較

図1 足利市の災害発生状況と国・県との比較



市の災害発生状況と国、県との比較で示すように、その頃より、足利市の災害発生件数は全国を大巾に上回っていることがわかる。

なお、国、県の給付率は、医療費を毎月支給する建前から、同一のけがでも、治療が3ヶ月にわたれば、給付は3件として算出しているのに対し、足利の場合は、実人員で算出しているため、治療

が3ヶ月にわたっても1件として数えてある。それを考えると、上回りすぎる災害発生について反省し、原因を究明し防止対策を至急考慮しなくてはならないことを痛感した。

・給付額についてみると、下記に示すとおり、国や県に比して、ぐっと安くなっている。足利市

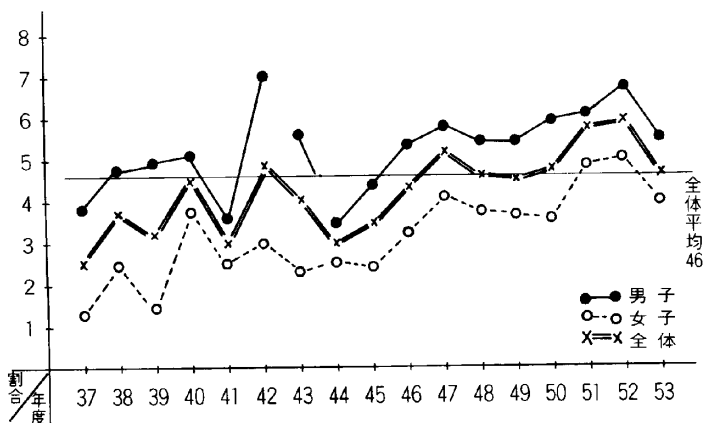
災害給付額 (1件平均)

国 (51年度)	4,591円
県 (53年度)	5,337円
足利 (53年度)	3,480円

の場合、医療機関が手近にあること、保護者や教師の負傷や疾病に対する関心が高く、早期治療を行うためと思うが、果して、すべて医療に依頼しただけでよいか。子どもの安全能力は適度な刺激がなくてはうまく発達しないが、過保護の点がなかったか、積極的な安全指導に欠けていなかったか、評価してみることも必要と思う。

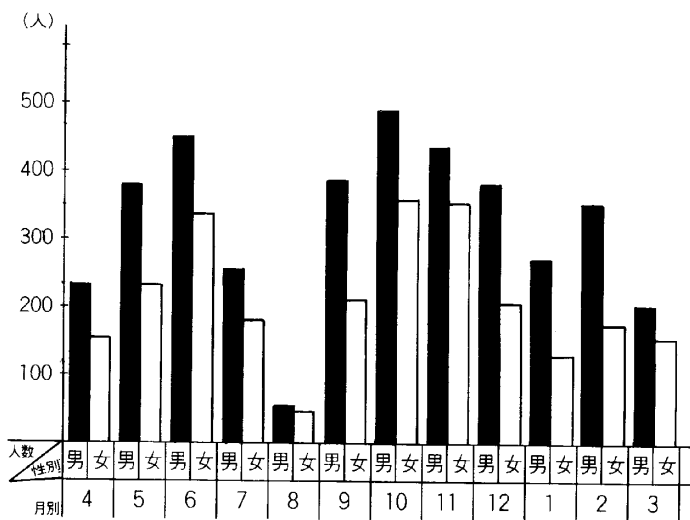
図2 は、表1 のグラフ化で、年度ごとに在籍児に対する災害発生の割合を見たものである。37年の2.5%~53年の4.7%と年度より多少の増減はあるが、年々増加の傾向にある。

図2 年次別性別発生状況



性別でみると、どの年

図3 月別発生状況



も男子が女子を大きく上回っている。男子の方が運動量が多く、激しく、スリルを楽しむ遊びの多いことから、向う見ずの行動がみられるものと思う。

図3 は表1を月別にしたものである。2学期の、10月、11月に多いのは、スポーツの秋で普段より運動量が多く、クラス対抗や競技会参加等があるためと思う。6

月に多いのは、学校やクラスに慣れ、緊張感がゆるみ、油断をして事故をおこしたのではないかとと思われる。

(2) 学年別、性別災害発生状況

図4

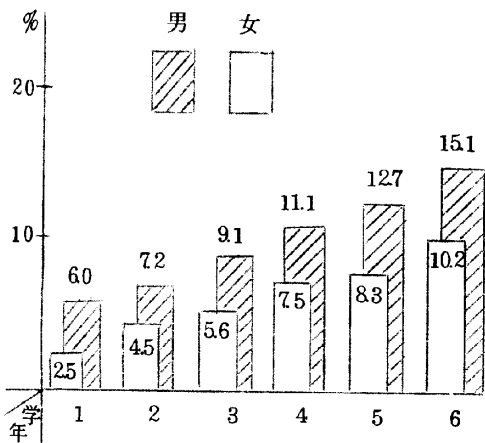


図5-1 男女の割合

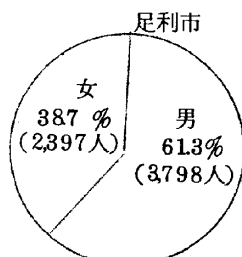


図4 学年別に災害発生をみると、男女とも高学年に進む程発生件数が多くなっている。1年では男子が、高学年では、女子の発生の割合が多い。

図5-2 全国

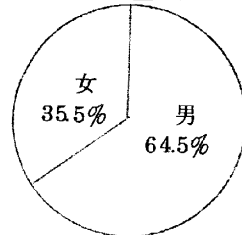


図5のの男女の割合はおおむね男6に対し女4の割合である。

全国平均に比較すると女子の負傷がやや多い。

(3) 曜日別災害状況

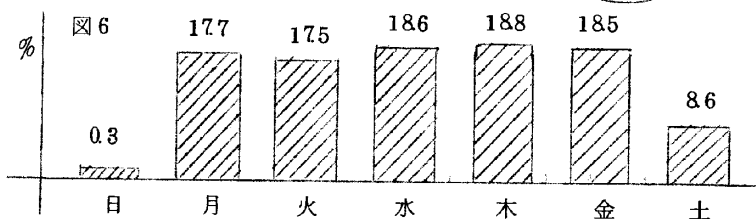
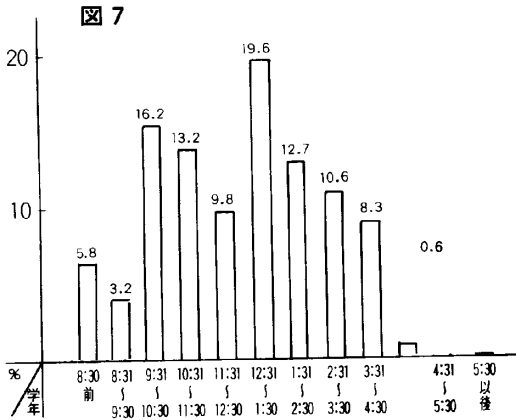


図6 土、日に発生が少ないのは当然で、平日には大差のないことがわかったが、どちらかといえば週末の方が多少ふえる傾向にある。

(4) 時間別災害発生状況

<考察>



時間別にみると、12:31~1:30が最も多い19.6%で、昼休みが時間的にも長く、昼食後の気のゆるみもはいい、遊びの活発化が考えられる。次が9:31~10:30の16%、10:31~11:30の13.2%となるが、この時間帯には、業時間の体育や共遊等を含む学校が多く運動量が多くなるためと思われる。両者を加えると昼休みを上まわる29.2%になる。

(5) 場所別災害発生状況

図8-1 どんな場所で多く発生しているか 足利市

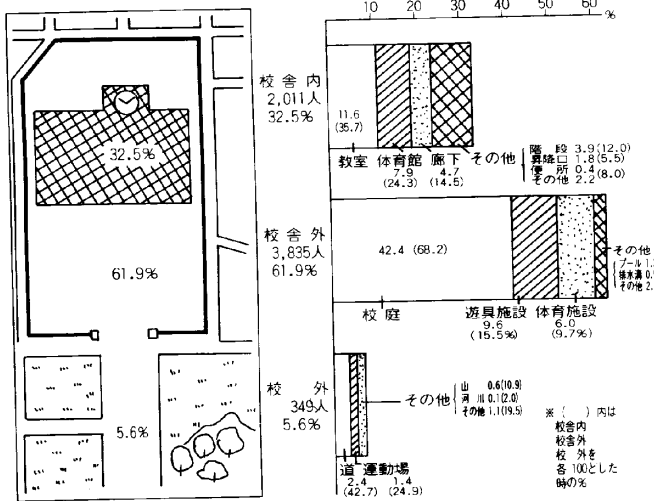


図8-3

足利市と全国の比較

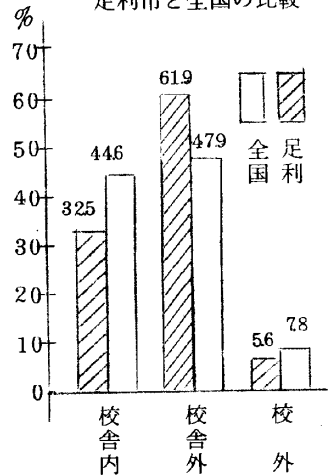
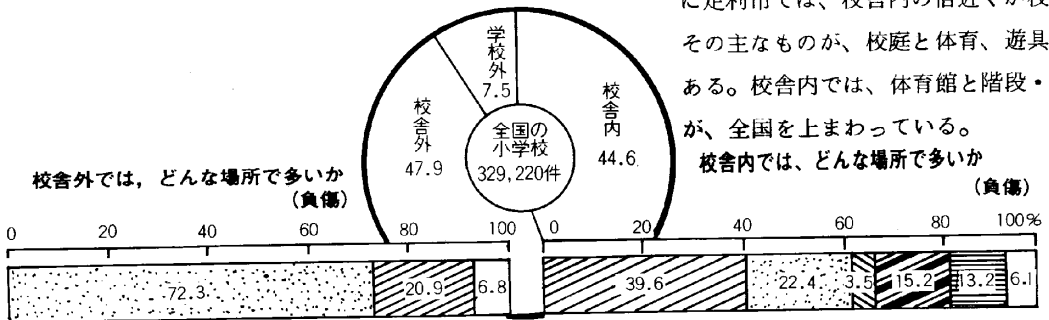
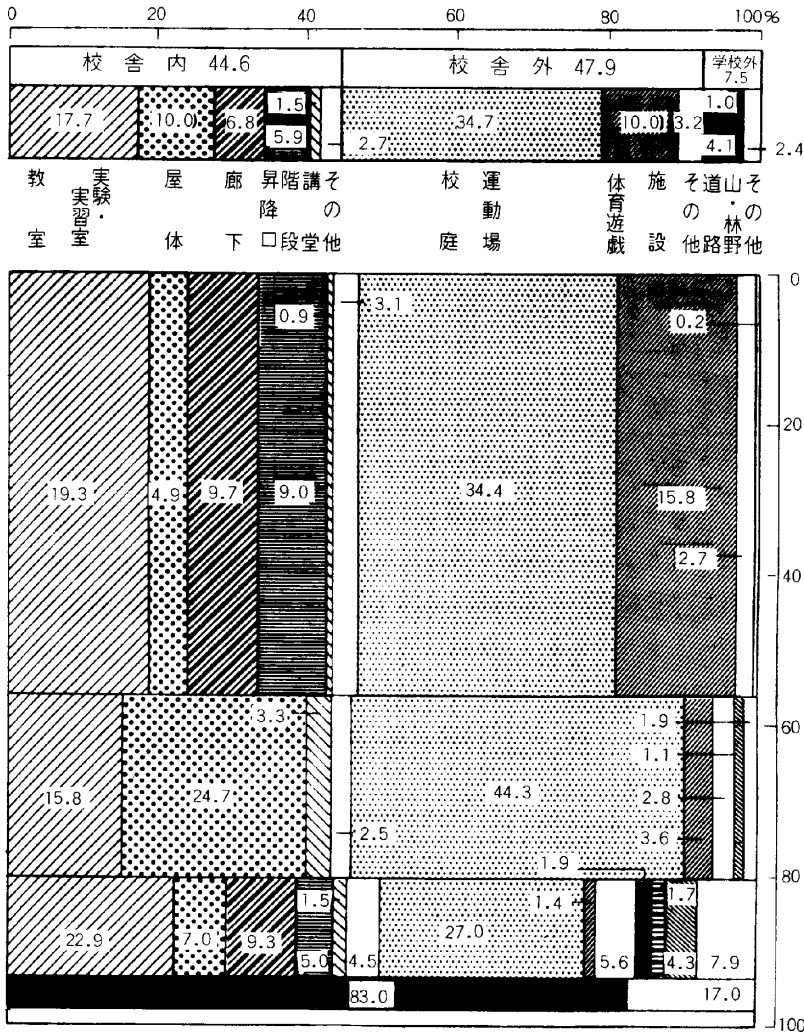


図8-2 全国の様子



全国は、校舎内外が、ほぼ同数に近いのに足利市では、校舎内の倍近くが校舎外でその主なものが、校庭と体育、遊具施設である。校舎内では、体育館と階段・昇降口が、全国を上まわっている。校舎内では、どんな場所で多いか (負傷)

図9 負傷は、どんな場合に、どんな場所で多いか。



日本学校安全会資料より、災害発生の場合と場所の相互関係をみてみた。

足利の場合、体育科では、校庭、体育館が多く、休憩時には校庭、固定施設教室が多いというように、運動量の多いところ、過す時間の長いところに、けがの発生も多い。

全国の場合も図9でみるように休憩時には、校庭、教室、施設の順に多く、この3つで70%を占める。教科では、体育時の負傷が多いため、場所として

は、校庭、体育館が目立ちそれぞれ70%を占める。次に教室の15.8%となっている。特別活動では、校庭27%、教室22.9%、山、林野のけがが4.3%、足利は10.9%を占めている。通学では、道路が大半を占め下校時に多い。

(6) 場合別、災害発生状況

① 場合別、災害発生件数

区分	場合別						合計
	教科	特別活動	課外活動	休憩時間	通学		
足利	件数	1,522	548	95	3,868	162	6,195
	%	24.6	8.8	1.5	62.4	2.6	
全国	%	24.4	12.6	2.5	55.9	4.6	

災害の発生は、休憩時が最も多く全体の62.4%を占め、次に教科、特別活動となり、この傾向は全国の場合別災害発生と同じである。詳しく見ると、休憩時の災害は、全国を上まわり特別活動や通学が少々下まわっている。

図10-1 災害は、どんな場合に多いか

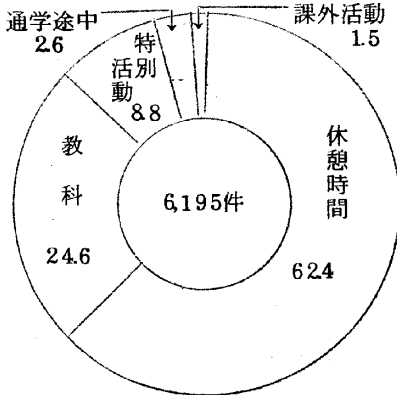


図10-2 どんな場合に多いか

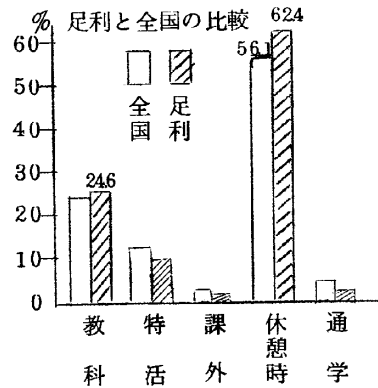


図10は表2をグラフ化したものである。前記の様子がよくわかると思う。

② 休憩時間のうちでは、どんな場合に多いか。

図11 足利市と全国との比較

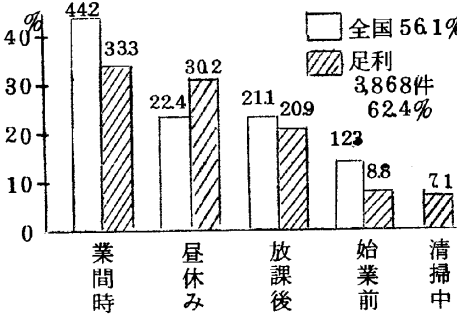
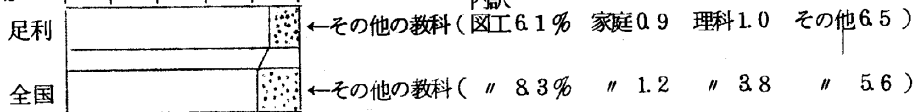


図11 休憩時間中の災害の場合、全体に占る割合は、足利では62.4%、全国では56.1%で前記のとおり。その内訳をみると左図のとおりになる。業間が最も多くなっている。全国と比較してみると、業間が少なく、昼休みに多いことがわかる。足利の場合、清掃中7.1%を別にしてみたが、放課後か、昼休みにはいるかも知れない。以後報告書作成に際し注意すべきことである。

③ 各教科のうちでは、どんな場合に多いか。

場合全体のうち、教科の占める割合は24.6%で、休憩時に続いて多い。そのうち85.5%が体育である。全国のようすも81.1%が体育である。

図12 0 20 40 60 80 100%



④ 特別活動では、どんな場合に多いか。

図13-1

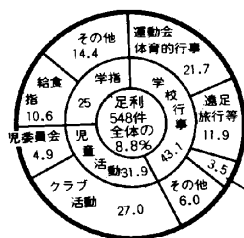
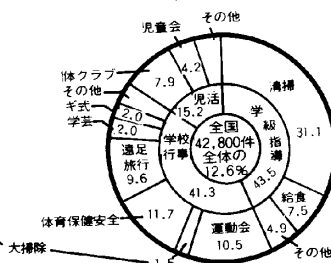


図13-2



足利の場合、クラブ活動27%、運動会等体育的行事22%、遠足、旅行が11.9%の順に多い。

⑤ 通学時における災害は、どんな場合に多いか。

・登校中 34.6% ・下校中 65.4% となっている。従って下校時の方が多い。

(7) 運動時の運動種目別災害発生状況

① 運動時の、どんな時に多いか。

② 場合別では、どんな時が多いか。

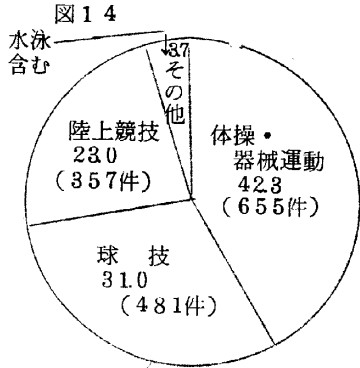
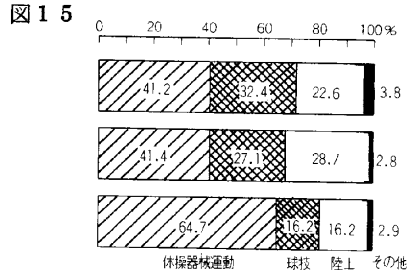


図14、図15は、運動時の総数 1,550 件 (全体の 2.5%) 種目のよすをみた。



③ 体育の授業では、どんな場合、どんな種目に多いか。

図16-1 足利市

図16-2 全国 (S51年度)

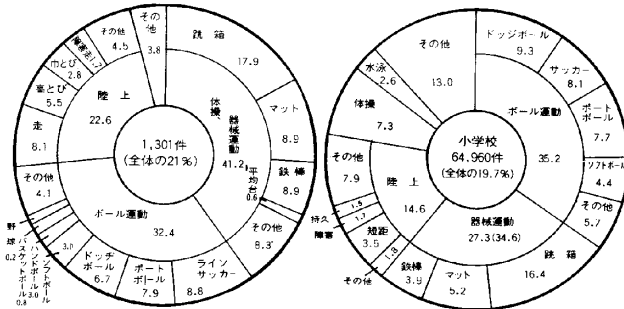


図14では、体操器械運動、球技、陸上の順に多いことがわかった。

図15の場合別では、どんな時かをみても、授業中も特活も部活ともに、図14と同じ傾向を示していることがわかった。

図16では、体育の授業においては、どんな種目に多いかみてみた。

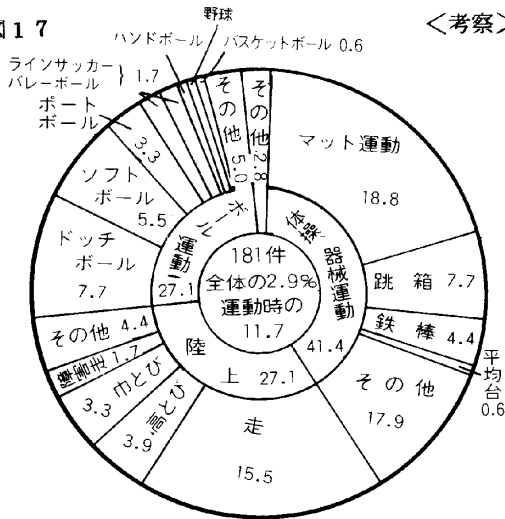
運動時の 83.9% を占める体育中、最も多いのが、体操、器械運動の 41.2% で、次が球技の 32.4%、陸上の順に多い。その内訳をみてみると、一番多いのが跳箱で、次がマット、鉄棒となる。球技では、ラインサッカー、ポートボール、ドッチボールの順、陸上では、走、高とび、巾とび、となっている。

図16-2で、全国のようすと比較してみると、全国は第1位が、ボール運動、2位が器械運動、足利のように体操と器械運動を合わせても 34.6% で足利より低い。内訳をみてみると、第1位は、足利、全国ともに跳箱になっている。授業中最も多いのは、跳箱ということになる。技術を必要とするものだけに、学年に応じた段階的な指導がもっと必要と思う。次に大きく上まわっているものに陸上がある。走において 3%、高とびでは 5% も多い。器械運動同様、技を必要とするものに差のある点を考えなくてはならない。



④ 特別活動では、どんな場合に、どんな種目に多いか。

図 17

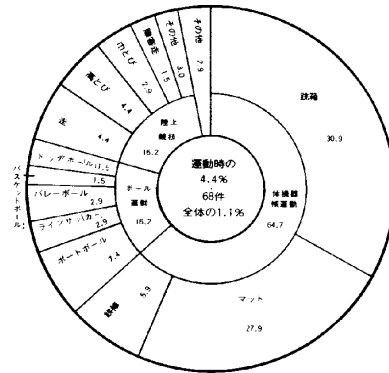


＜考察＞ 図17でみるように、体操器械運動が、41.4%で、陸上とボール運動がそれぞれ27.1%となっている。内訳をみると跳び箱の倍以上をマット運動が占め第1位となっている。走も15.5%と高く、クラブ活動の活発さがうかがえる。前項図13 特活のクラブ活動の比をみると、全国7.9%に対し足利2.7%と3倍強の負傷者を出していることを思い出す。クラブの隆盛さはよいが、同好の友の集りであるだけに、安全指導に甘さがないか反省させられる。

⑤ 部活動では、どんな場合に、どんな種目に多いか。

総数68件は運動時の4.4%と少ない数ではあるが、参加児の少ないことなど考えると問題を究明してはならない。

図 18



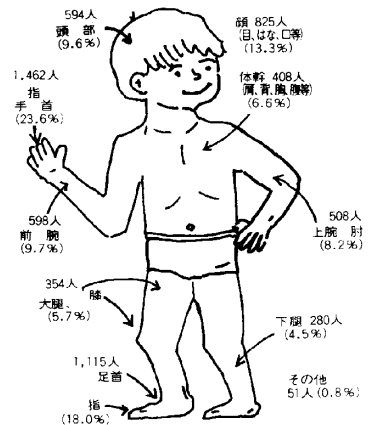
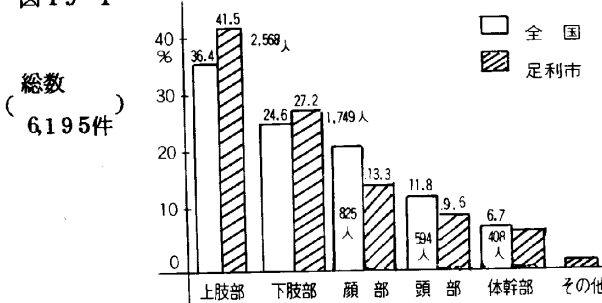
＜考察＞ 図18をみると、一番多いのが、体操、器械運動の64.7%でクラブ活動と同じことがいえる。体育時の体操、器械運動の災害発生率を1とする部活動のそれは1.5となる。体操、器械運動だけで6割以上を占めていることは指導上の問題も考えられる。

(8) 傷病部位別災害状況

図 19-2

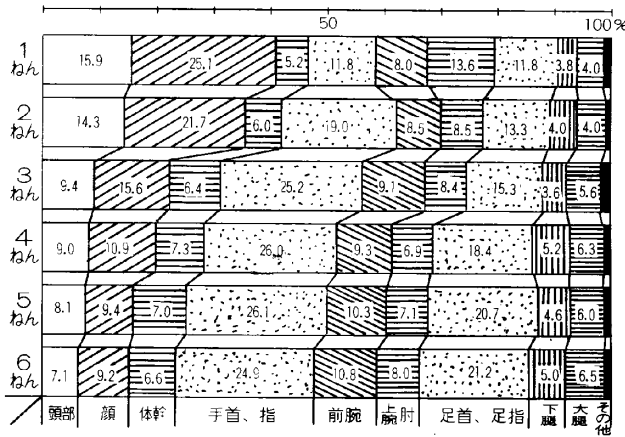
① どんな部位に負傷が多いか。

図 19-1



② 学年により、どこの部位に多く負傷するか。

<考察> 図19でみるように上肢



が最も多く、手首と指とで全体の23.6%を占める。次が下肢である。頭と顔は小さな部分であるが、両者を加えると22.9%と、手につぐけが数である。それに各種問題も含む。

図20と合わせてみると、これが低学年では40%にもなることを肝に銘じ、安全管理や指導にあたらなくてはならない。

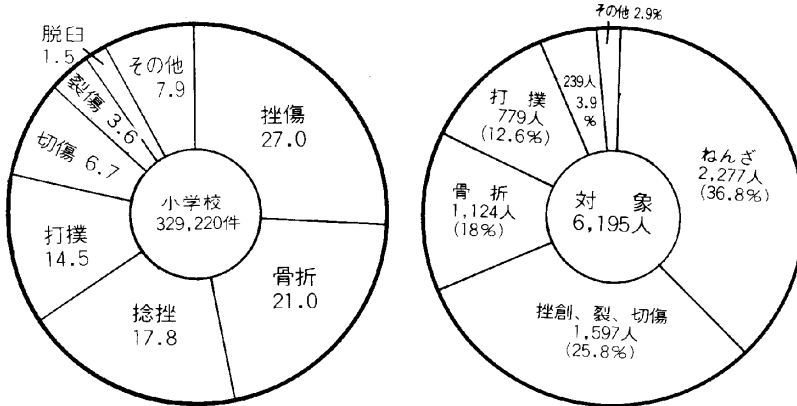
(9) 傷病名別災害状況

① どんな負傷が多いか。

図21-1 足利市では

<考察>

図21-2 全国では



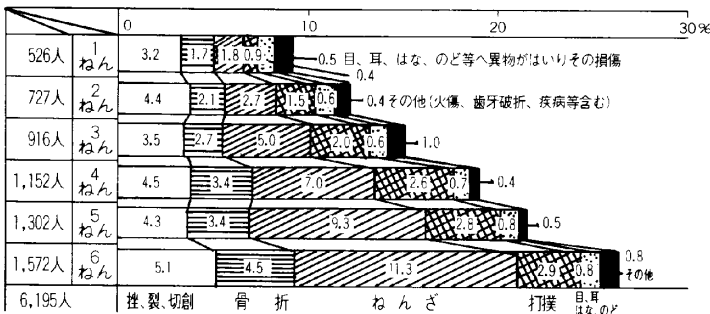
足利の場合、第1位が捻挫で36.8%、全国とは大分異なる。

部位別で、1、2位を占める、手や足の負傷がねんざである点、図22と合わせてみると、高学年に捻挫が多く特に女子に著しい点など、一考を要する。

次が挫傷、骨折の順となる。全国は、挫傷、骨折の順で、数も多い。

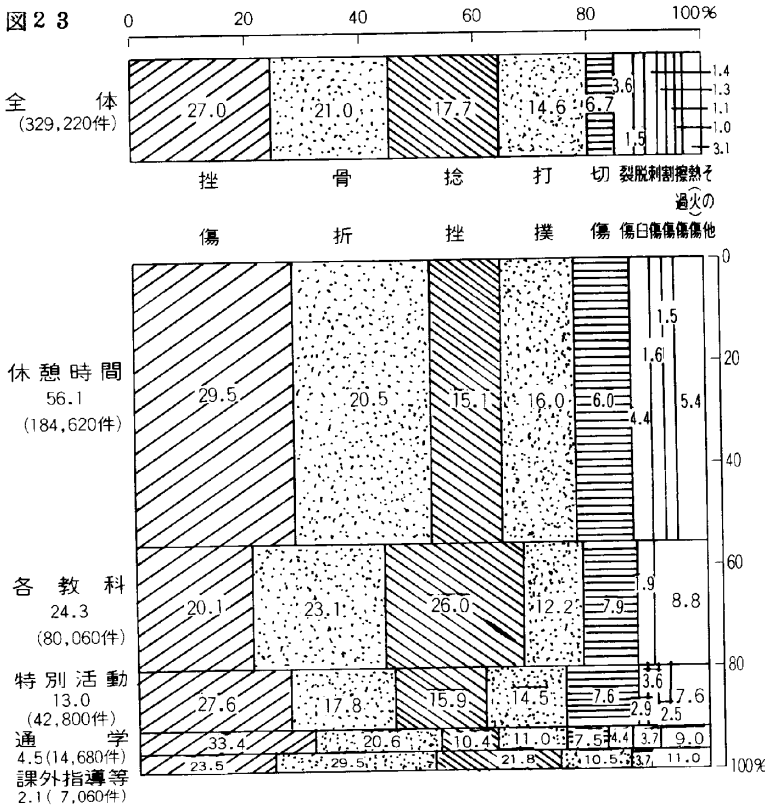
② 学年によりどんな負傷が多いか。

図22



③ どんな場合に、どんな負傷が多いか。

(日本学校安全会資料 51年度より)



〈考察〉 どんな場合に、ど

んな負傷が多いか、相互関係について、その傾向をみると、左図のとおりである。休憩時には挫傷と骨折で半分を占める。

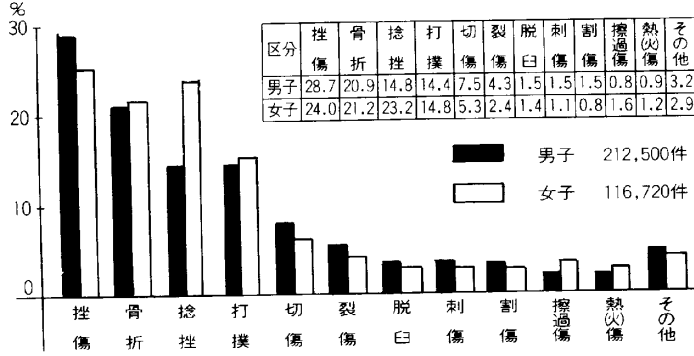
教科では、捻挫、挫傷、骨折とも20～26%の発生をみている。

特活、通学では、挫傷が多く、次が骨折である。

足利では、4.6%を占める5、6年の負傷の第1位が捻挫であるためか、全国と大きな差をつけ捻挫が1位である。

④ 性別では、何のけがが最も多いか。

図 2 4 負傷の種類男女別比較 (小学校)  
(日本学校安全会資料51年度より)



〈考察〉 負傷の種類を男女別に

みると、左図のようになる。男子では、挫傷、骨折、捻挫、打撲、切傷の順に対し、女子では、挫傷、捻挫、骨折、打撲と

なり、捻挫が著しく多くなっている。足利市の場合、この傾向が更に著しく、捻挫が第1位を占めている。

⑤ からだの各部位では、どんな負傷が多いか。

ア. 頭部では、挫傷、打撲で8割近くを占める。全体からみた数では1割程度であるが、外傷が見えない時などは判断に苦しみ、重傷は急を要し、軽度でもゆるがせにできない。

イ. 顔部では、挫傷が最も多く、次が打撲、切傷の順である。同じ挫傷でも、目、鼻、口で症状、外傷のようすともちがってくる。医療もそれぞれ専門医の所へ依来する。

眼の場合、打撲が最も多いが、他に石灰や薬品が目にはいり腐蝕する場合もある。

口では、挫傷が最も多く、裂傷を加えるとそれが80%を占め、歯牙の脱臼や骨折、破損など時折みられ、治療に長くかかることもある。

鼻では、ふざけて吸引した木の実やビー玉のとれなくなった例などみられる。

頭部同様安全指導の強化をはからなければならないところである。

ウ. 体幹部では、全体の66%であるが、鎖骨々折が主で、次が打撲、捻挫、挫傷となっている。胸、腹、背、腰は打撲が多く約半数をしめる。これも外傷の見えないことが多いので、多面的な問診、聴取が必要で、経過を観察しなければならない負傷である。

エ. 上肢部、上腕や前腕では、骨折が最も多く75~85%をしめている。手首(手関節)部は、捻挫が70%で、次が挫傷、骨折となる。手指では、捻挫、骨折、挫傷、切傷等、同程度の発生率で、手指の多様性をものごとがたっている。大いに訓練の要がある。

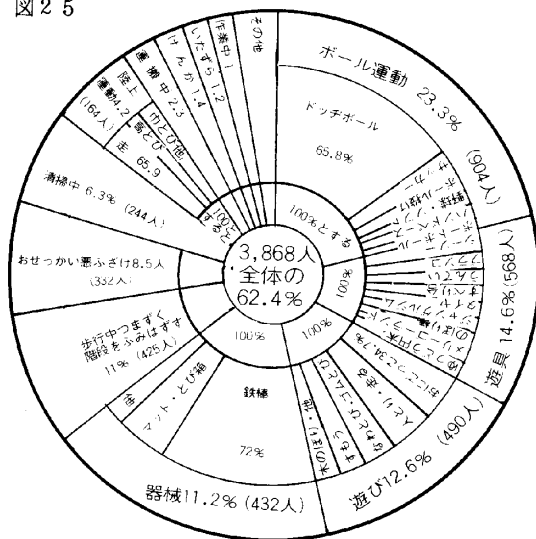
オ. 下肢部、下腿では、骨折が40%をしめている。足首(足関節)では、捻挫が83%をしめ、次が挫傷、打撲の順になっている。足指部では、骨折、捻挫、挫傷と同程度ある。体を支えている脚として、もっと強くなるよう努力しなくてはならない。

次に刺傷6%が目につく。踏みつけて歩く足の特性であるかも知れないが、一方環境の安全管理に注意を喚起しているのかも知れない。安全点検に一考を要する。

10) 休憩時における災害発生状況

① どんなことで どうして 負傷したか。

図 25



<考察>

前項(6)の場合別をみると、休憩時の災害発生が62.4%を占め、一番多いことがわかった。では、どんなことでどうして災害が発生しているのだろうか。図25の円グラフを見てみよう。一番多いのは、ボール運動の23.3%、2位が遊具で、3位が遊び、4位が器械運動によるもの。以下図のようになっている。

さらに詳しくみてみると、ボール運動の中では、ドッチボールが65.8%を占め、次がサッカー、ボール投げになっている。2位の遊具によるものでは、シーソー(回転シーソー含む)、ブランコ、雲梯、すべり台、タイヤ、

使用のさい、手をすべらせたり、足をひっかけたりで落下した負傷が半数をしめている。

3位の遊びでは、鬼ごっこ、走りまわって、人とり等、いろんな遊びを創造し、無造作に走りまわっているうち、ふとしたはずみにけがしている。少しの注意と安全確認の習慣で防止できる。

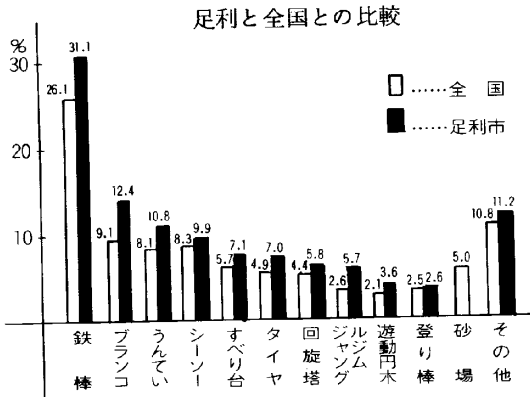
4位の器械運動では、鉄棒が圧倒的に多く器械運動中の7.2%を占めている。体育的の災害をみると鉄棒は、跳び箱やマットよりずっと少ないことを思うと、休憩時なので、安易な気持ちで使用し、時には冒険を試み、自己を過信してやってみるのではないだろうか。指導面の問題も関連して考えなくてはならない。

5位の歩行中つまずく、階段をふみはずすであるが、危険回避力の欠除に起因することが大きいと考えられる。活発な子どもほど転んだり、ぶつかったりして、かすり傷は絶えないが、それで行動のコントロールや、環境への対応を身につけていくものである。つまずいたくらいで医者へ行く子どもたちに、運動の基本を早く身につけさせたい。

6位のおせっかいや悪ふざけ、7位の清掃中など、故意にやるのではないが、おせっかいが、調子にのり事故をおこしているように思われる。本人の注意と同時に相手の注意も必要で、正しい遊びを身につけさせるべきと思う。

## ② 校庭における、固定施設での負傷

図26 体育・遊具施設における負傷



〈考察〉 図26の体育・遊具施設での災害状況をみてみよう。ここでのけがは、休憩時における発生の中の25.7%を占めている。図に示すとおり鉄棒が31.1%と際立って多く、次いで、シーソー9.9%、ブランコ9.1%、雲梯8.1%と続いている。

全国と比較してみると、鉄棒は上まわるが、ブランコや雲梯ではやや低い。図27と合わせてみると、遊具を使う低学年より、体育施設を多く使う高学年に、けがが多いためであろうか。

## ③ 休憩時における学年別のけがのようす

図27

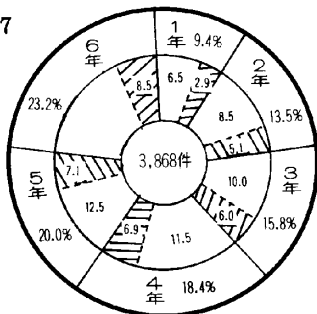


図27の学年別性別をみてみよう。先の項図4の学年別性別と比較すると、休憩時においては、男子の方が多く、しかも高学年になる程その差が出る。休憩という気のゆるみ発育刺激を満喫させるべく、短い時間であればまわるためかも知れない。殆どどの負傷に見舞金も適用されるので、教師も保護者も気安く医療を受けさせる傾向もある。安全会制度についての認識をさらに正しくし、自己防

術能力を高めるよう、積極的な指導をする必要があると思う。

(1) 災害原因の究明

① 調査対象 男236人 女156人 計392人 (53年度災害報告書提出者)

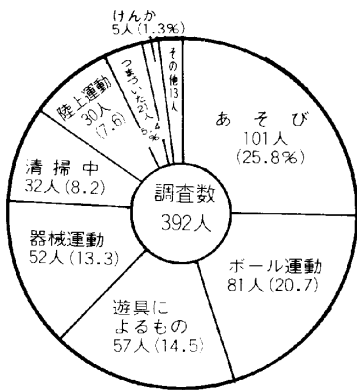
② 対象校 市内小学校 13校

③ 53年度足利市災害状況

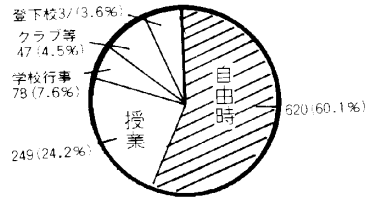
ア. 傷害件数 1,031件 イ. 発生率 6.4%

④ 災害種目別発生状況

図28 どんなことで、けがをしているか



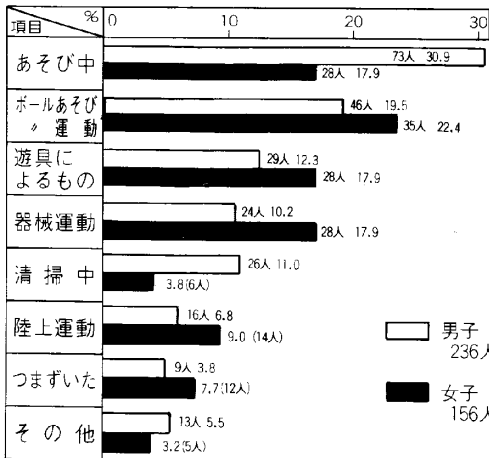
ウ. 小学校災害状況



〈考察〉 図28は、あそびが最大になっている。先きの項で分類した、いたずらやおせっかい、悪ふざけなど、故意にやったのではなく、単なる遊びがその発端である場合が多数あったため、この調査ではその分を多くあそびの方へ分類したため、あそびが多くなったと思われる。次がボール運動で20.7%、次が遊具で14.5%となる。

⑤ 性別災害発生状況

図29 種目により男女の差がみられるか



〈考察〉 あそび中と清掃中をみると男子が女子の倍～3倍近く多い。男子は、あそびに熱中、ルール違反する子、新しい遊びに挑戦、思わぬことでけがをするなど、ふざけたり、不注意だったりが目立つ。

遊具による運動あそび、体育的な運動になると、女子に負傷者が多い。走る、跳ぶ握るなど基本的な運動が身についてないのか、集中力の不足なのか、男子同様不注意によるものも多い。

⑥ 災害原因の分類

災害原因をどう分類することが望ましく、これからの活用に役立てられるか、協議した結果、児童の行動内容により分類することが、安全指導や生活指導に一番定着させることができるのではないかと結論に達し、ア～カに至る6項目に分類した。

- ア. 技が未熟……これに入れたもの・ボールを取りそこねた ・鉄棒、跳び箱、高とび等着地点失敗 ・人とび、タイヤ、跳び箱等手のつき方が悪い ・目測を誤りふみ切りに失敗 ・彫刻刀の使い方が下手 ・ブランコやシーソーの握り方が悪いなど技術を必要とするものなのに練習が不足し、技術が身についてないためにおこった負傷を入れた。
- イ. 自分の不注意……これに入れたもの・鬼ごっこや走りまわっていて、机や柱、固定して置いたある物に、ふっていた手がぶつかる ・ふざけながら歩いていて階段をふみはずす ・すべり台や滑車など、ルール違反して使い(面白いから)負傷するなど、少し注意すれば防止できると思われることにより負傷したものをを入れた。
- ウ. つまずいた……これに入れたもの・教室移動とか、水呑みに行くとか、目的を持ってごく普通に歩いていたのに、少しの凸凹や小石、階段などにつまずいてよろけた、ころんだなど、反射機能の未熟というか危険回避能力が身についてない。今後、幼児レベルから筋の訓練をしないと、正常な機能の発育があやぶまれるような子のおこした負傷の例を入れた。
- エ. 相手の不注意……・回転シーソーに乗っていて相手にだまって降りた ・ふざけがエキサイトした友を溝に押し落した ・友人のかけようとしたイスを強く引いてしまった ・棒をふりまわして当てたなど、相手のことを考えないでした行為により事故がおきてしまったもの。
- オ. からみ合い……これに入れたもの・すもう、長なわとび中互いに体がふれあい共にくらんだ ・サッカー、ドッチボール中、1コのボールを2人以上で取り合う際おきた ・マラソン出発当初多数の中でもまれてころんだ。など自己だけの技や注意ではどうにもならないもの。
- カ. その他……・遠足で山を歩行中落石に当たる ・雑布掛中とげがはいる ・閉めた大戸が倒れて来てなど、環境に問題があると思われるものや、けんか、口論やふざけが昂じてなった場合もあるが、性の合わないもの同志が、時折りやるけんかのうち、パンチを入れたのが目に当たった、など亢奮している場合などがあり、ア～オにはいらぬものを入れた。

⑦ 災害原因別発生状況

どんな原因で発生しているか。

図30

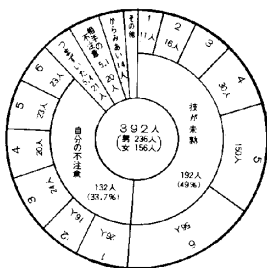


図31 原因別、性別

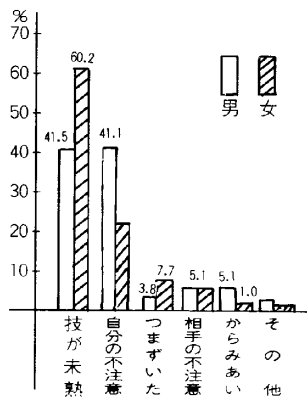
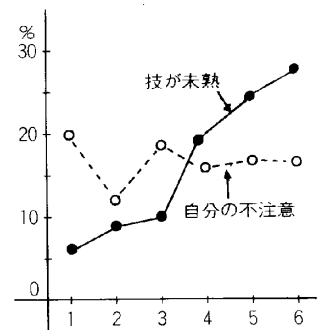
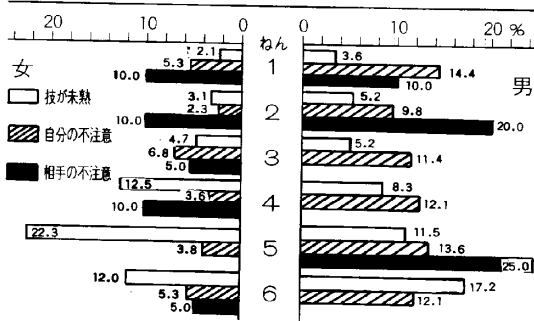


図32 技が未熟・自分の不注意はどの学年に多いか。



<考察> 図30は、災害原因を行動面より分類して割合をみた。

図33 学年別では、どんな原因が多くみられるか



次に多いのが、自分の不注意、2年が少々低い、全学年大差がない。男子の方が断然多く無手っ法さを感じさせる。

次がつまずいた。何んでそんなところで…本人でも原因不明、精神的空白時なのか、原因追求に苦しむ。反射機能の未発達か、筋力の弱さや、骨のもろさを感じる。段階的に積極的指導が必要。次が、相手の不注意、女子は学年を通して、男子では高学年に多い。おせっかいが限

図35 災害種目別原因の割合

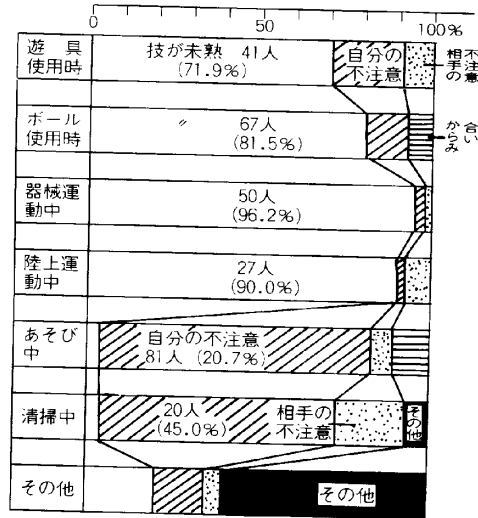
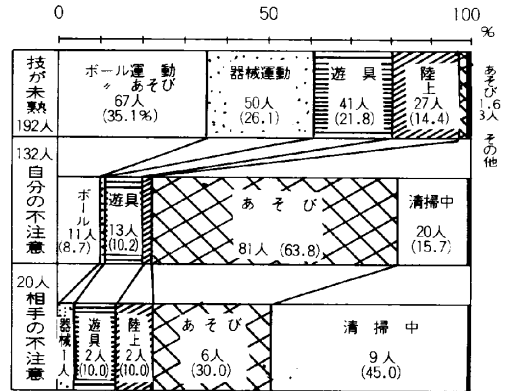


図31は、原因を性別に、図32は、80%を占める1、2位の原因を学年性別にみた。図33はこれを、学年性別でみたものである。図でみるように、技を必要とするものは、高学年になる程多く、特に女子に著しい。技術面のことは頭ではよく知っているが、練習不足のため、手足が動いてくれないようだ。

図34 原因別種目の比較



度をわきまえないでする場合もあるので、大きな問題をおこす場合もある。諸注意を怠ってはならない。

図35をみると、技の未熟は、運動あそびの中で最も親しまれているボール使用時に多い。次が器械運動、遊具では、回転シーソーやブランコよりのとびおり失敗などが目立つ。・自分の不注意は、あそびの中が最も多い。自由な遊びは、体力、知力共に伸すといわれ歩く、走る、跳ぶ、投げる、引くの基本が自然に身につく、反射機能もつくとされている。施設使用時の安全確認や相手にも注意する態度を身につけ、積極的にあそんでほしい。



5. 安全管理、安全指導と養護教諭の役割 → 紙面の都合で略します

(1) 学校保健安全計画の作成と実施（保健法第2条で立案・実施の責任が示された）

保健計画は養護教諭が安全計画は安全担当者が作成してよいが、両者を調整して、学校の全体教育計画の中に位置づけられ、実施に当っては、全職員がこれに当たることになっている。これにかかわる養護教諭のあり方は、学校経営に位置づけられてる保健安全計画の位置によりそれぞれがっている。

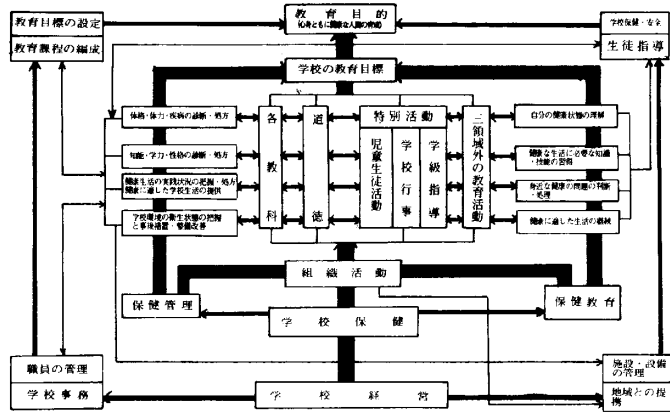
養護教諭の執務内容が厩大で明確化されておらず、個人の技量におところが大きいところがあるが、養護教諭の組織能力の不足も考えられるので大いに研究の要がある。

(2) 学校安全総合評価

56年度保健安全計画立案の資料とするため、実施した数校のものをまとめてみたものである。

ふつう が大部分であるが、悪い が20%になる項目が、59項目中19項、40%に及ぶものが5項目もある。けがの多発がうなずける。どのように改善していくことがよいか。他の係とも密接な連絡をとり協議し、共通理解し、子どもとともに実践する。わるいの見られる指導面について一般教師と共に研究し、更に深めていきたいと思う。

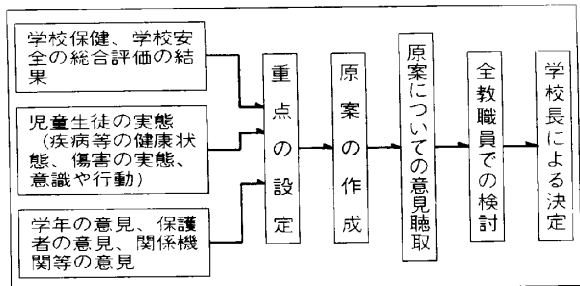
学校経営と学校保健活動との関係構造 文部省学校保健課 教科調査官 吉田 肇 一郎



学校保健安全計画の内容

学 校 保 健	学 校 安 全
<b>保健管理</b> ○児童生徒の定期・臨時の健康診断 ○健康診断の事後措置 ○法第11条の健康相談 ○定期・臨時の学校環境衛生検査・事後措置 ○学校環境の美化清掃 ○体重検査 ○伝染病・食中毒の予防措置 ○児童生徒の健康に対する意識や行動調べ ○その他必要な事項 <b>保健体育</b> ○体育科・保健体育科での学年別・月別の保健学習の指導事項 ○理科、関連教科における保健に関する指導事項 ○学校指導、ホームルームでの月別・学年別指導事項 ○学校行事の保健安全的行事の保健に関する行事 ○児童会・生徒会活動で予想される活動 ○個別的な保健指導 ○その他必要な事項 <b>組織活動</b> ○学校保健に関する校内研修 ○学校保健委員会 ○その他必要な事項（学校保健の総合評価等）	<b>安全管理</b> ○定期・臨時の安全点検と事後措置 ○通学路の選定及び通学の安全管理のきまりの設定 ○火災・地震などの防災に関する事項 ○学校生活の安全管理のきまりの設定 ○児童生徒の安全に対する意識や行動調べ ○その他必要な事項 <b>安全教育</b> ○学年別・月別の関連教科における安全に関する指導事項 ○学校指導、ホームルームでの月別・学年別の指導事項 （交通安全、生活安全を含む） ○学校行事の保健安全的行事の安全に関する行事（避難訓練、交通安全指導等） ○児童会・生徒会活動での予想される活動 ○課外での安全指導（自転車教室、二輪車安全運転教室等） ○個別指導 <b>組織活動</b> ○学校安全に関する校内研修 ○学校安全委員会 ○その他必要な事項（学校安全の総合評価等）

学校保健安全計画立案の手順



# 学校安全総合評価

55年12月実施

※ (よい) (まあ) (わるい) 無回答

領域	項目	観点	評価A B C					領域	項目	観点	評価A B C						
			0	20	40	60	80				100	0	20	40	60	80	100
学校安全の基本	学校安全に対する考え方が、とらえ方が適切であるか。	①安全観が確かなものになっているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]					安全管理	2.校外生活における安全管理が適切に行われているか。	①通学路の設定、その安全維持のための点検と事後措置が適切に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]						
		②安全教育和安全管理の2本の柱でとらえているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]							②通学の安全確保のための徒歩や自動車の交通規制等の措置がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]						
		③推進する校内体制が確立されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]							③通学の安全のための適切な通学方法が計画され安全な通学がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]						
		④学校安全計画がたてられているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]							④学区内の危険箇所が明示され安全措置がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]						
		⑤家庭や地域社会との協力関係が確立されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]							⑤野外における遊びや運動場所についての必要な規制がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]						
学校安全に関する組織活動	1.協力体制が確立され活動が円滑になっているか。	①安全教育における職員の役割が明確で円滑な活動が展開されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]						対物管理	1.校舎内外の施設・設備の安全点検と安全措置が適切に行われているか。	①安全点検の実施要領が作成されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]					
		②安全管理における職員の役割が明確で円滑な活動が展開されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]								②安全点検が年間を通じて計画的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]					
		③事故防止におけるPTAの役割が明確で円滑な活動が展開されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]								③点検の結果の安全措置が適切に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]					
		④学校、P、地域を結ぶ組織活動など円滑に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]								④点検が児童の活動と相まって実施、結果の検証が適切に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]					
		⑤けいさつ、消防署等地域の安全に關する連携との連携が円滑か。	[Bar chart showing evaluation for item 5]								⑤点検や措置の記録が適切に管理され、指導に役立てられているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]					
対人管理のうちの人	2.PTAの協力体制が確立され、活動が円滑になっているか。	①事故防止におけるPTAの役割が明確で円滑な活動が展開されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]							環境の管理	2.環境の美化等清潔面への配慮がなされているか。	①生命尊重の心情を育てるために動物の飼育や植物の栽培活動がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]				
		②PTAの協力体制が確立され、活動が円滑になっているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]									②情緒安定の心情を育てるために動物の飼育や植物の栽培活動がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]				
		③地域関係機関等との協力体制が確立されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]									③清掃活動がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]				
		④PTAの協力体制が確立され、活動が円滑になっているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]									④清掃活動がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]				
		⑤PTAの協力体制が確立され、活動が円滑になっているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]									⑤清掃活動がなされているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]				
対人管理のうちの人	3.健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	①健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]					安全指導			1.安全学習の授業において、安全に関する知識が養われるよう配慮がなされているか。	①体育・保健で安全に關する内容を計画的に効果的に進められているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]				
		②健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]									②理、算等教科の学習を通して、項目の内容が計画の作成、指導の段階で十分配慮されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]				
		③健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]									③体育の運動において、場が安全に留意し、活動できるようにしたか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]				
		④健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]									④学指、HRにおける安全指導の年間計画がたてられているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]				
		⑤健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]									⑤学指、HRにおける安全指導の年間計画がたてられているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]				
対人管理のうちの人	4.事故発生時の「主眼点」の診断が適切に行われているか。	①健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]						特別活動における安全指導		(1) 学級指導やホームルームにおける安全指導が効果的に行われているか。	①学指、HRにおける安全指導の年間計画がたてられているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]				
		②健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]									②指導内容が、児童の地域の実態に即し適切なものに精選されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]				
		③健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]									③特設又は1単位時間の指導と、短い時間の指導の組合せが適切であるか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]				
		④健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]									④指導の時間が適切に確保されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]				
		⑤健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]									⑤指導が実践意欲を高め、危険予測と安全を見通す判断力が養われるよう工夫されているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]				
対人管理のうちの人	5.事故発生時の「主眼点」の診断が適切に行われているか。	①健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]							教育	(2) 学校行事における安全指導は適切に行われているか。	①安全に関する行事が、計画的、しかも効果的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]				
		②健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]									②満足、教育的行事は安全の配慮のもとに行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]				
		③健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]									③体育的、生産的行事が安全の配慮のもとに行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]				
		④健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]									④児童活動(委員会)の安全に関する活動が自発的、自主的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]				
		⑤健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]									⑤児童活動(委員会)の安全に関する活動が自発的、自主的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]				
対人管理のうちの人	6.事故発生時の「主眼点」の診断が適切に行われているか。	①健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]					教育			(3) 児童活動における安全指導は適切に行われているか。	①児童活動(委員会)の安全に関する活動が自発的、自主的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]				
		②健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]									②クラブにおいて、児童が自発的、自主的に安全に留意し活動を行っているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]				
		③健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]									③学級活動において安全活動が自発的、自主的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]				
		④健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]									④学級活動において安全活動が自発的、自主的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]				
		⑤健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]									④学級活動において安全活動が自発的、自主的に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]				
対人管理のうちの人	7.事故発生時の「主眼点」の診断が適切に行われているか。	①健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]						教育		教育課程外の場における安全指導は適切に行われているか。	①自転車安全教育など効果的に進められているか。	[Bar chart showing evaluation for item 1]				
		②健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]									②個別指導力(関係職員や家庭等)の協力のもとに適切に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 2]				
		③健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]									③個別指導力(関係職員や家庭等)の協力のもとに適切に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 3]				
		④健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]									④個別指導力(関係職員や家庭等)の協力のもとに適切に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 4]				
		⑤健康診断結果を安全の管理に活用しているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]									④個別指導力(関係職員や家庭等)の協力のもとに適切に行われているか。	[Bar chart showing evaluation for item 5]				

○管理面は、概してよいに対し、指導面におけるがみられる。治療とクラス差のあることや医者にいくのが多い点を見ると、学校安全の基本をおさえ、組織的に力を入れた指導がなされなくてはならないと思う。

## 6. ま と め

災害発生の実態より、発生要因を分析し、年々増加の傾向にある災害を防止し、この時期につけておこななくては、つきにくい安全能力、反射機能の発達に教師や親は、どう対処することが望ましいか、さぐってみた。調査、分析に幾分科学的思考の欠けるところがあるが、

- ① 足利の子は、男女比4：3くらいの割合で、安全会をよく活用する（軽度でも医者に見せる）
- ② 災害は休憩時、校庭や教室で自由遊び中に多発し、その多くが危険回避能力や技の未熟である。
- ③ けがは、ねんざが最高でボール使用時に多い。骨折も高学年に進むほど多いので注意を要する。
- ④ 施設では、鉄棒のけがが第1で、遊戯施設が次である。ここでは全学年を通じ同じような発生傾向にあり、頭や顔が多い。全学年とも徹底した安全指導と同じに基礎体力づくりに努力を要する。
- ⑤ 負傷は、上肢、指に多いが、上腕、下腿、頭、顔のけがは、挫傷や骨折が多く重症になり易い。
- ⑥ 運動時では、器械運動が第1で、跳び箱が特に目立つ。個人の発達に合った段階的指導を望む。
- ⑦ 原因別では、技の未熟が半数で高学年に多い。次が自分の不注意、つまずくを入れると40%になり全学年とも20%程度ある。安全管理、指導上根本的に考えていかなければならない。

（この分類は、行動面よりみただけで、科学的思考の軽薄であったことを反省している）

- ⑧ 安全管理・指導では、総合安全評価でみられるように、全職員で保健安全計画の実施に当たっているにもかかわらず、問題を持つ子の個別指導にまでいってない。ここに養護教諭のインデックト・リーダーシップがものをいうのであろうが、それがみられない点を大いに反省している。

以上、災害状況をみて考慮しなくてはならない点をまとめてみた。この資料の活用に当たり安全機能の発達には体育部と、情緒の発達や同志の遊びの掟の扱い等では児童指導部と、連携を密にし、児童期につけておくべき体力的要素と安全的要素の研究を深め、それに係る養護教諭の果すべき役割についても明らかにしたいと念じている。

## 7. 反 省

資料作成に当たって、次のような反省もでた。

- ① グループ研究者間に、ねらいに対する共通理解の不足があり、集計、分析とも全体の経過に対する考察に欠けた。従って、内部要因、外部要因を明らかにすることができなかった。
- ② 科学的思考が軽薄であった。習慣上の勘でしたため、労の割に説得力の欠けた資料となった。勘（総合判断能力）の理論的裏づけのため、これを機会に養護教諭の執務の中に科学性を身につける場を、児童の社会性や心理、分析の研究を更に組織能力を高めるための研修に努力し、養護教諭自身の、そして会全体の質の向上に努力したい。その機会の多数あることを切望する。

最後になりましたが、本調査、分析をするに当たり、県教育委員会保健体育課指導主事、日本学校安全会栃木支部の諸先生方から懇切丁寧など指導や資料の提供をして頂きましたことについて、深く感謝の意を表します。（養護教諭一同）